2021年
7月

県内景況・確報

◎概況　**県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により復調の動きが依然停滞し、厳しい状況にある。**

●2021年７月 おきぎん「カトレア」景況図●

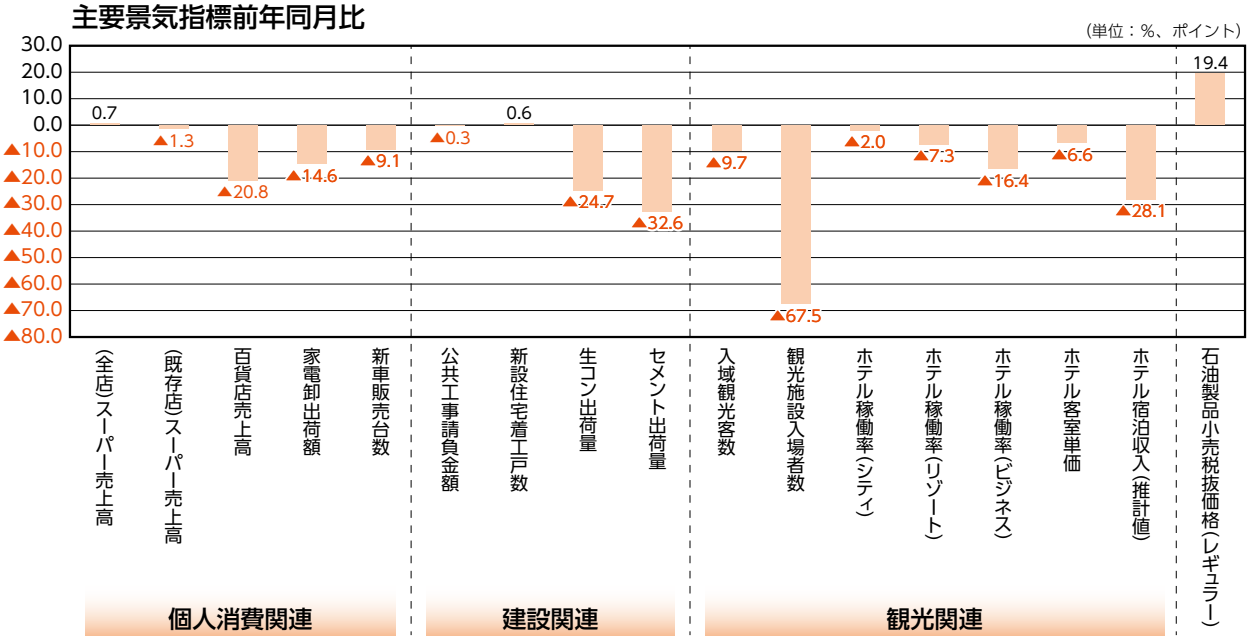
７月の県内景況は、**個人消費関連**では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は前年同月を下回り、新車販売台数も前年同月を下回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は２ヵ月連続で前年同月を下回りました。新設住宅着工戸数は前年同月を上回り、建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は４ヵ月ぶりに前年同月を下回り、観光施設入場者数においても緊急事態宣言継続に伴う臨時休業（休館・休園）により前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルともに前年同月を下回りました。ホテル客室単価及び宿泊収入（推計値）においても前年同月を下回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費及び建設関連は弱さがみられ、観光関連では緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の適用に伴う入域観光客数の減少や観光施設の臨時休業などにより、依然として厳しい状況にあることなどから、**「県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により復調の動きが依然停滞し、厳しい状況にある。」**と景気判断を据え置きました。

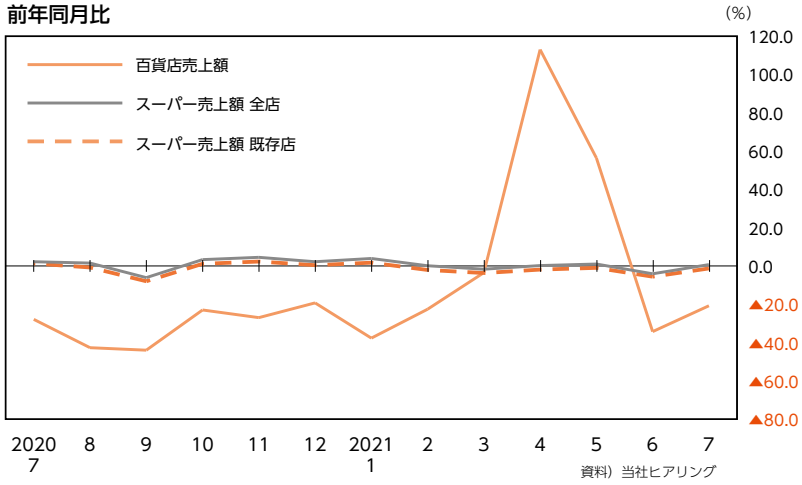
主要景気指標前年同月比



個人消費 （やや悪い）

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは下回る。百貨店売上高は、前年同月を下回る。

７月の個人消費関連では、**スーパー売上高「全店ベース（前年同月比0.7％増）」**は、２ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。品目別では、「衣料品（同14.4％減）」、「家庭用品（同5.6％減）」は、緊急事態宣言発出による外出自粛の影響などから、前年同月を下回りました。一方、「食料品（同3.6％増）」は巣ごもり需要などから全般的に伸び、前年同月を上回りました。

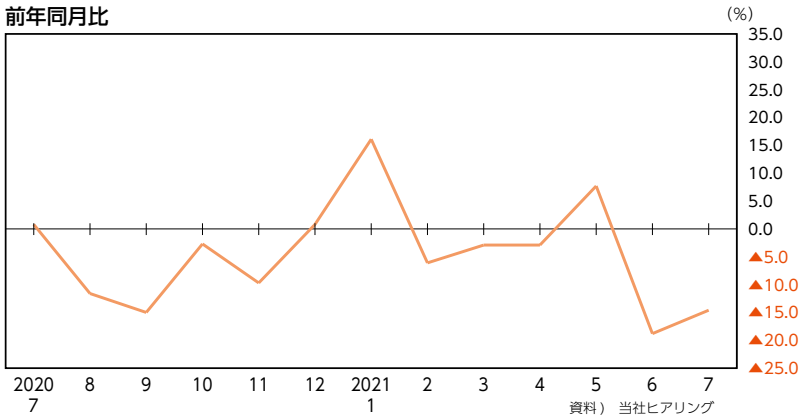


「既存店ベース（同1.3％減）」は、６ヵ月連続で前年同月を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品（同1.9％増）」は、外出自粛の影響などから巣ごもり需要が増加し、前年同月を上回りました。一方、「衣料品（同13.1％減）」は、緊急事態宣言発出による外出自粛や、台風の停滞の影響などにより、前年同月を下回りました。家電を含む「家庭用品（同9.2％減）」は、前年に特別定額給付金の支給により伸びた反動などから、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、緊急事態宣言発出による外出自粛の影響などにより、食料品を除き全般的に伸びず、２ヵ月連続で前年同月を下回りました（同20.8％減）。内訳をみると、「食料品（同4.7％増）」は、お中元ギフト需要の増加や、物産展開催による集客効果などから５ヵ月連続で前年同月を上回りました。一方、ウェイトの高い「衣料品（同30.5％減）」は、緊急事態宣言発出に伴う外出自粛や、台風の停滞による来店客数の減少などから伸び悩み、「紳士服（同26.2％減）」、「婦人服（同29.2％減）」、「子供服（同38.9％減）」など全般的に伸びず、２ヵ月連続で前年同月を下回りました。「雑貨（同47.9％減）」も、緊急事態宣言発出による来店客数減少の影響から、前年同月を下回りました。

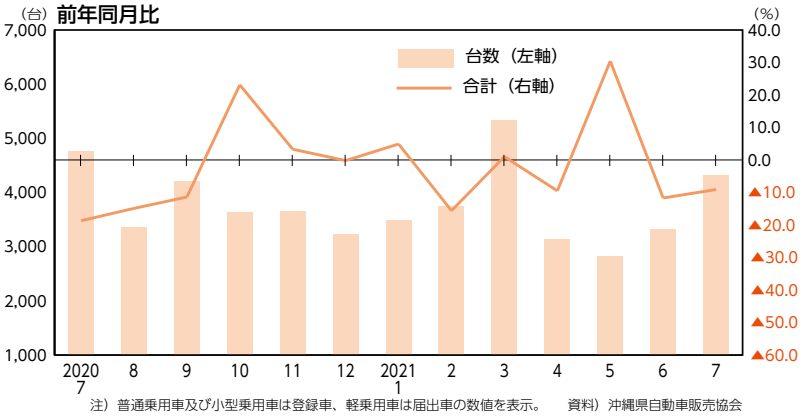
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は２ヵ月連続で前年同月を下回る。

家電卸出荷額は、2ヵ月連続で前年同月を下回りました（同14.6％減）。品目別では、「テレビ（同14.4％増）」は、大型商品などの高価格帯商品が伸び、前年同月を上回りました。「レンジ（同24.1％増）」は、外出自粛による巣ごもり需要増加などから前年同月を上回りました。一方、「エアコン（同19.6％減）」、「冷蔵庫（同4.1％減）」、「洗濯機（同22.0％減）」は、天候要因や、前年に定額給付金支給により伸びた反動、世界的な半導体不足の影響による在庫不足などから、前年同月を下回りました。



③ 新車販売台数…新車販売台数は、２ヵ月連続で前年同月を下回る。

新車販売台数は、全体で4,316台(同9.1％減)となり、２ヵ月連続で前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同3.7％減)」は、自家用車は増加したものの、レンタカーが減少し、前年同月を下回りました。「小型乗用車(同4.5％減)」、「軽乗用車(同19.9％減)」は自家用車、レンタカーともに減少し、前年同月を下回りました。



注）普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。　資料）沖縄県自動車販売協会

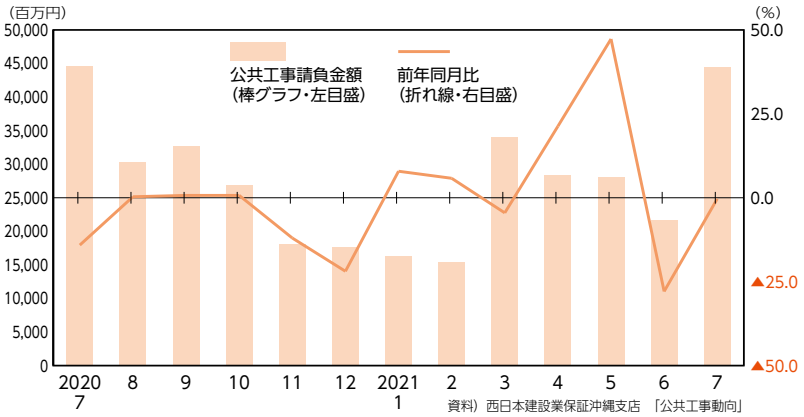
※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

建設関連 （ふつう）

① 公共工事…公共工事請負金額は前年同月を下回る。

７月の公共工事請負金額は、前年同月比0.3％減の444億3,900万円となりました（２ヵ月連続減）。

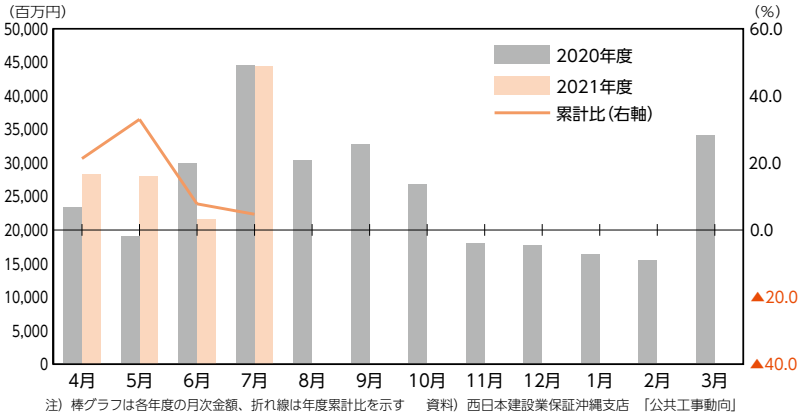
発注者別でみると、「国（同10.6%減)」や「沖縄県（同22.0%減)」は前年同月を下回りました。一方、「市町村（同37.6%増)」、「その他の公共的団体（同34.7%増)」、「独立行政法人等（同63.4％増)」は前年同月を上回りました。



資料）西日本建設業保証沖縄支店「公共工事動向」

【参考】公共工事(年度累計)…公共工事請負金額は前年同期を上回る。

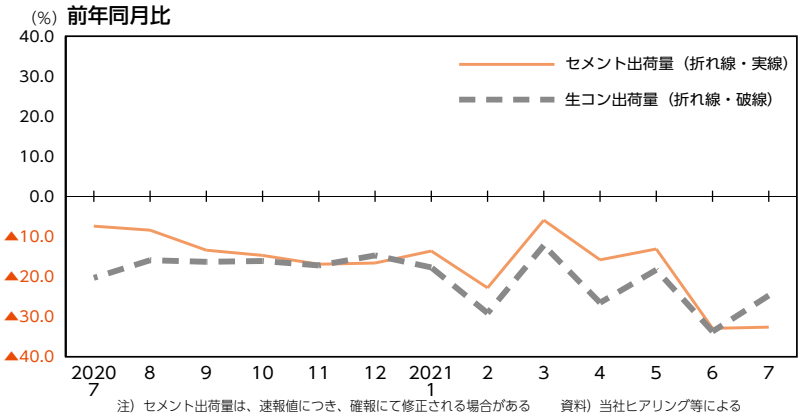
今年度累計値では4.7％増となっております。



注）棒グラフは各年度の月次金額、折れ線は年度累計比を示す　資料）西日本建設業保証沖縄支店「公共工事動向」

② 建設資材…生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

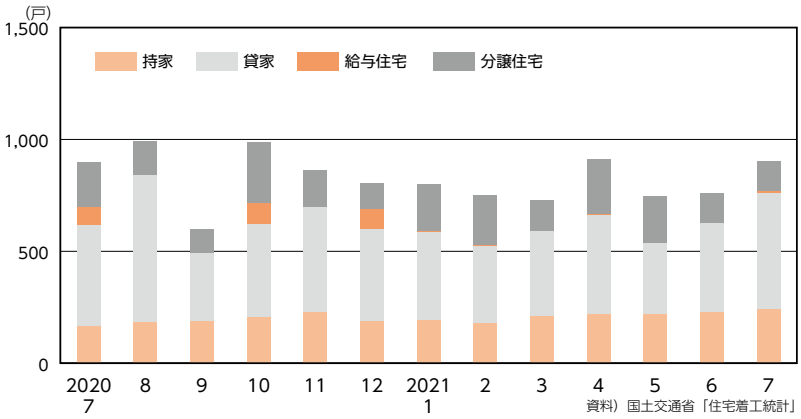
建設資材関連では、**生コン**の出荷量は24.7％減と18ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳をみると、公共工事向けは、防衛関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より30.4％下回り、民間工事向けは、ホテル関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より21.6％下回りました。**セメント**出荷量は32.6％減と13ヵ月連続で前年同月を下回りました。



注）セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある　資料）当社ヒアリング等による

③ 住宅投資…着工戸数は前年同月を上回る。

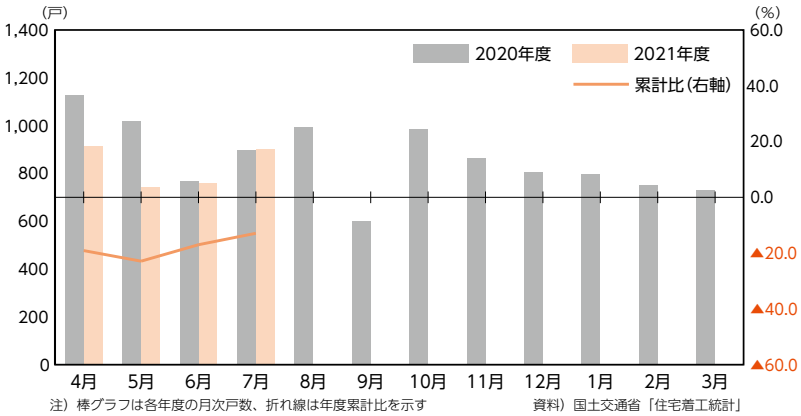
新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比0.6％増の901戸となり、6ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家（同15.5％増）」のほか、「持家（同44.8％増）」は前年同月を上回りました。一方、「給与住宅（同88.0％減）」や「分譲住宅（同33.5％減）」は前年同月を下回りました。



資料）国土交通省「住宅着工統計」

【参考】住宅投資（年度累計）…着工戸数は前年同期を下回る。

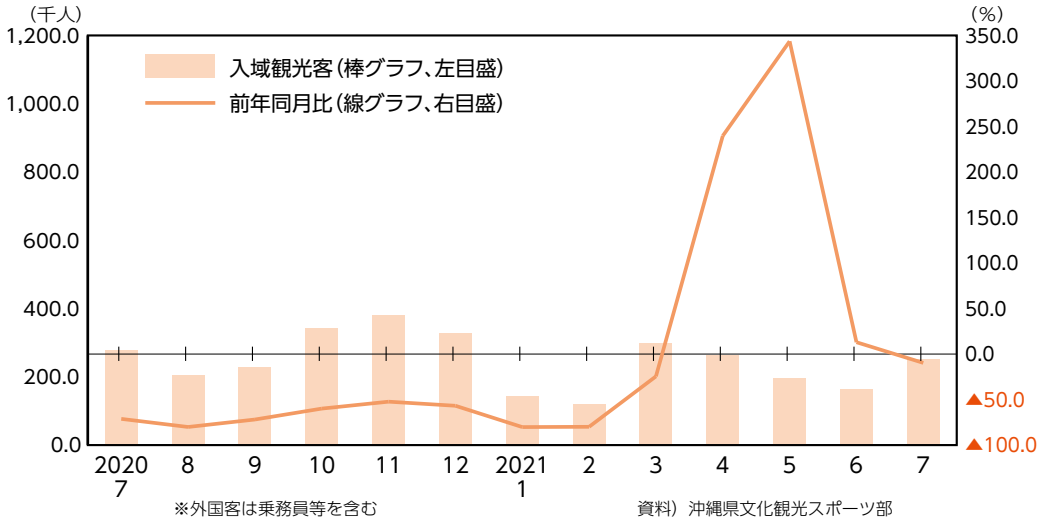
今年度累計値では、12.9％減となっています。



注）棒グラフは各年度の月次戸数、折れ線は年度累計比を示す　資料）国土交通省「住宅着工統計」

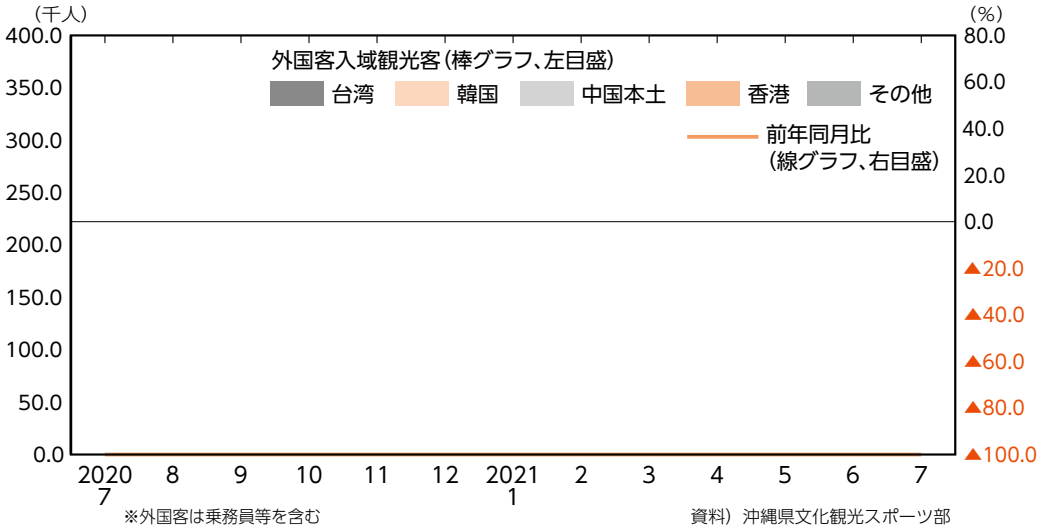
観光関連 （悪い）

① 入域観光客数（国内客・外国客の合計）…４ヶ月ぶりに前年同月を下回る。



※外国客は乗務員等を含む　　資料）沖縄県文化観光スポーツ部

外国客 入域観光客数…前年同月同様、皆減。



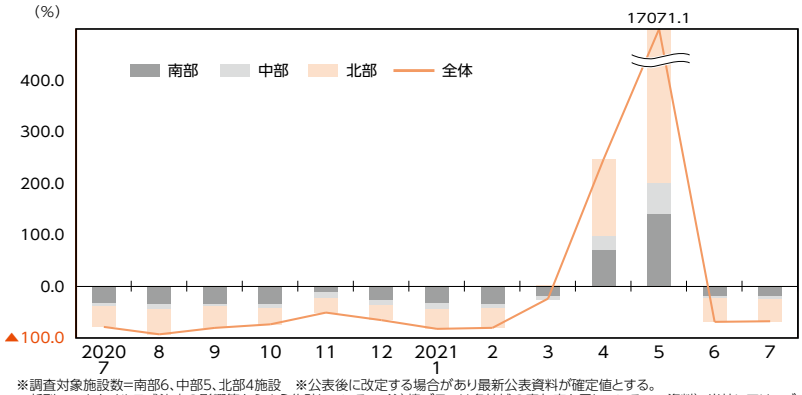
※外国客は乗務員等を含む　　資料）沖縄県文化観光スポーツ部

７月の入域観光客数は、26,900人少ない250,400人（前年同月比9.7％減）となり、４ヶ月ぶりに前年同月を下回りました。緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の適用が継続されたことや、前年度におけるGOTOトラベル事業の反動減などから、前年同月を下回りました。また前々年（2019年）同月比では713,200人減少（74.0％減）と大きく下回っており、依然として厳しい状況となっています。

外国客入域観光客数は、前年同月同様０人となりました。台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、「台湾（同100.0％減）」「韓国（同100.0％減）」「中国本土（同100.0％減）」「香港（同100.0％減）」と引き続き皆減となりました。

② 観光施設入場者数…２ヶ月連続で前年同月を下回る。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より67.5%減少しました。緊急事態宣言継続に伴う臨時休業（休館・休園）により前年同月を大幅に下回りました。地域別にみると、南部にある観光施設は同65.3%減、中部は同64.9%減、北部は同68.7%減と全地域において前年同月を下回りました。

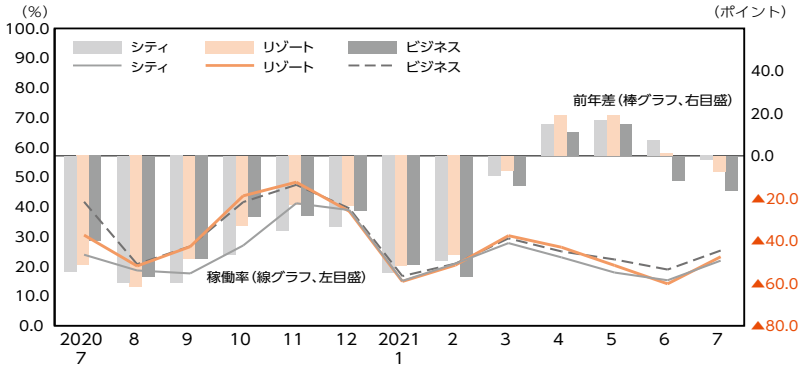


※調査対象施設数=南部6、中部5、北部4施設　※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。
※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。　注）棒グラフは各地域の寄与度を示している　資料）当社ヒアリング

(参考)前々年(2019年)比では、全体で93.0%の減少となります。内訳では南部にある観光施設が94.4%減少、中部が94.2%減少、北部が94.8%の減少と、依然厳しい状況となっています。

③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルともに前年同月を下回る。

県内ホテル稼働率は、緊急事態宣言延長や台風の影響にて、シティホテルが21.9%と前年同月より2.0ポイント減少、リゾートホテルが23.2%と7.3ポイント減少（ともに４ヶ月ぶり減）しました。ビジネスホテルにおいても25.3%と16.4ポイント減少(２ヵ月連続)しました。



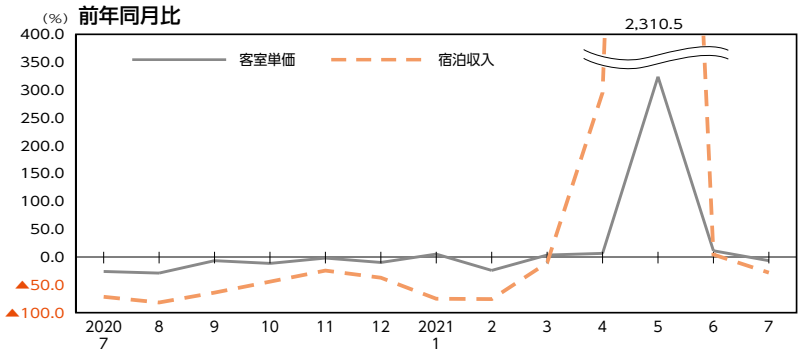
注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。
※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。　資料）当社ヒアリング

(参考)前々年(2019年)比では、シティホテルが56.3ポイントの減少、リゾートホテルが58.7ポイントの減少、ビジネスホテルが56.5ポイントの減少と、依然厳しい状況となっています。

④ ホテル客室単価・宿泊収入…ホテル客室単価、宿泊収入ともに前年同月を下回る。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は緊急事態宣言延長や台風の影響もあり、前年同月比6.6%減と前年同月を下回りました。また**宿泊収入**も同28.1%減と前年同月を下回りました。

(参考)前々年(2019年)比では、客室単価が30.9%の減少、客室収入は79.5%の減少と、依然厳しい状況となっています。



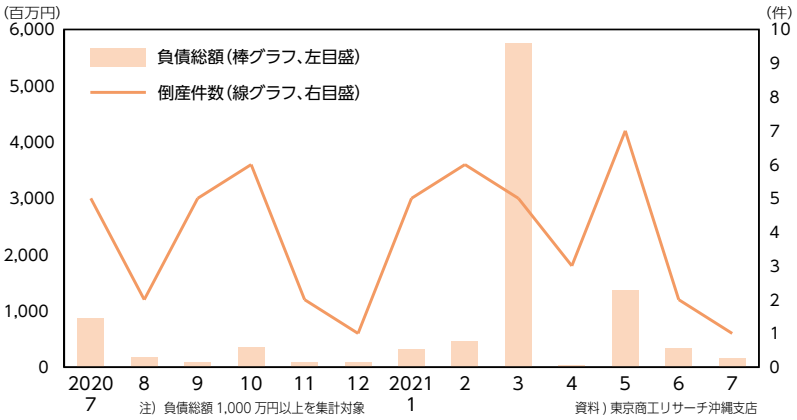
※対象施設数：26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く　※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)　※公表後に改定する場合があり最新公表資料が確定値とする。
※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえ集計している。　資料）当社ヒアリング

企業倒産 （やや良い）

企業倒産…件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

７月の企業倒産件数は、１件（うち大口倒産１件）となり、前年同月より80.0％下回りました。

負債総額は１億5,400万円となり、前年同月より82.1％下回りました。

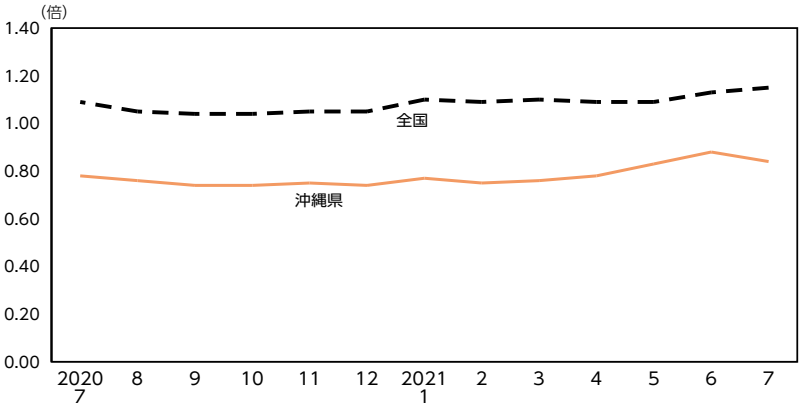


注）負債総額 1,000 万円以上を集計対象　資料）東京商工リサーチ沖縄支店

雇用関連 （やや悪い）

① 有効求人倍率…沖縄は前月より低下、全国は上昇。

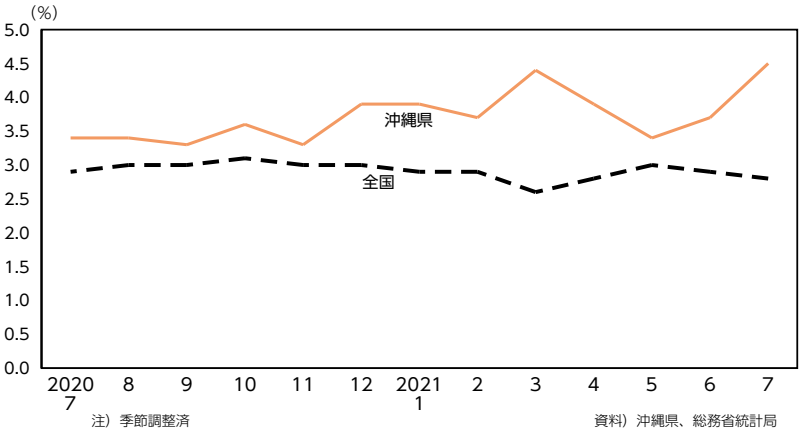
７月の雇用状況は、月間有効求人数（季節調整値）が前月比0.1％増の24,600人に対して、月間有効求職者数（同上）は前月比3.7％増の29,120人となり、**有効求人倍率（季節調整値）**は0.84倍と、前月より0.04ポイント低下しました。



注）季節調整済　注）沖縄県の数値は県内を就業地とする「就業地別」求人数を用いて算出　資料）沖縄労働局、厚生労働省

② 完全失業率…沖縄は前月より上昇、全国は低下。

７月の完全失業率（季節調整値）は、4.5％となり前月より0.8ポイント上昇しました。



注）季節調整済　資料）沖縄県、総務省統計局